

日本臨床検査専門医会 第5回年次大会



日時 **2026年5月24日(日)**
12:00-13:00

会場 千葉大学墨田サテライトキャンパス
第一会場(3F)

dPCR技術が拓くグリオーマ診療の未来： ctDNA解析に基づく診断及び治療モニタリング

座長 まつ した かず ゆき
松下一之先生
(千葉大学医学部附属病院 検査部長)

演者 なつめ だ まなぶ
棗田学先生
(新潟大学 脳研究所 脳神経外科学分野 腫瘍病態学部門 准教授
新潟大学医歯学総合病院 ゲノム医療部 がんゲノム医療センター長)

日本臨床検査専門医学会

第5回年次大会



日時

2026年 **5/24**日 8:30~9:20

会場

千葉大学墨田サテライトキャンパス 第一会場 (3F)

座長

湯地 晃一郎 | 東京大学医科学研究所 国際健康医療推進社会連携研究部門

演者

松下一之 | 千葉大学医学部附属病院 検査部・臨床検査科、遺伝子診療部・がんゲノムセンター

共催

日本臨床検査専門医学会 第5回年次大会、Compass 株式会社

LDTs の臨床実装における課題（臨床検査専門医の立場から）

—検査情報の利活用についての関連事項—

本講演では、LDTs の臨床実装という観点から、検査によって得られる情報の臨床活用について検討する。IVD と比較して、LDTs は Validation（分析妥当性）を経ていないため、精度管理の責任体制や第三者認定といった多面的な課題に直面する。これらの論点については、LDTs の保険収載の観点から、臨床検査の施設要件や必要な人材など、多くの議論が積み重ねられている。一方で、LDTs により得られた検査情報を社会に役立つ形でどのように利活用へとつなげるべきか、という問題がある。IVD から得られる情報は、多くの場合、IVD として成立する過程において、Validation が行われており、その用途、報告範囲、解釈責任が添付文書というかたちで公開されている。これに対し、LDTs で扱われる情報はその精度管理方法を含めて詳細な情報が公開されておらずにアクセスできない場面も少なくない。本講演では、難病やがんの遺伝学的検査を例として、正式な報告、補足情報、ならびに研究的解析から得られる知見のあいだに、どのようなあいまいさや解釈（アノテーション）の限界があり得るのかを考察する。それらの LDTs から得られた検査情報をデータベース化し、臨床応用へと活用する際の方法および責任のあり方、不具合なデータの共有・修正方法等について、参加されている方々と議論したい。

日本臨床検査専門医学会 第5回年次大会

松下 一之 教授

まつした かずゆき



学歴

- 1988年 千葉大学医学部卒業、
- 1995年 日千葉大学大学院医学研究科博士課程終了（医学博士）

専門分野

- 臨床検査・臨床遺伝、ゲノム医療、遺伝性腫瘍、質量分析、LDTの医療実装

職歴

- 1988年 千葉大学医学部附属病院第二外科
- 1997-2000年 客員研究員（米国国立がんセンター（NCI））
- 2008年 千葉大学医学部附属病院（検査部）
- 2016年 千葉大学医学部附属病院（検査部部長・遺伝子診療部・がんゲノムセンター・超音波センター）
- 2022年 千葉大学医学部附属病院（臨床検査科標榜）
- 2024年 千葉大学医学部附属病院 超音波センター（兼務）現在に至る

所属学会

- 日本臨床検査医学会理事（遺伝子委員会担当理事、検査項目コード委員会担当理事、臨床検査点数委員会委員長、統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会委員、臨床検査室医療評価委員会委員、臨床検査専門医試験委員）
- 日本臨床検査医学会関東・甲信越支部幹事
- クリニカルバイオバンク学会理事
- 日本遺伝子診療学会副理事長・評議員
- 日本臨床検査専門医会常任理事（保険点数委員会委員長）・全国幹事（2016-2019）
- 日本臨床化学会理事・評議員など

免許及び資格

- 医師免許
- 日本専門医機構臨床検査専門医・臨床検査管理医
- 臨床遺伝専門医
- 難病指定医
- 日本がん治療認定医機構暫定教育医
- 医用質量分析認定士
- 日本遺伝性腫瘍学会・遺伝性腫瘍指導医
- 日本がん治療認定医機構認定医・指導医
- 外科認定医・専門医・指導医
- 認定登録医
- 消化器外科学会認定医など

学会活動等

- 日本臨床検査医学会理事（遺伝子委員会担当理事検査項目コード委員会担当理事、臨床検査点数委員会委員長、統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会委員、臨床検査室医療評価委員会委員、臨床検査専門医試験委員）
- 日本臨床検査医学会関東・甲信越支部幹事
- 日本臨床検査専門医会常任理事（保険点数委員会委員長）・全国幹事（2016-2019）
- 日本遺伝子診療学会副理事長・評議員
- 日本臨床化学会理事・評議員、など。

社会活動等

- 千葉県精度管理専門委員（2014.12-2022 現在）
- 千葉市精度管理専門委員（2015.12-2022 現在）
- 船橋市精度管理専門委員（2014.12-2022 現在）
- 柏市精度管理専門委員（2020.12.1-2022 現在）
- ちば県民健康予防財団精度管理委員（2015.12-2022 現在）
- 臨床検査振興協議会 保険点数委員会委員（2016.10-2022 現在）
- 臨床検査振興協議会 ゲノム小委員会委員（2016.10-2022 現在）
- 厚生労働省保険局医療課（保険医療専門審査員）（2019.8-2021 現在）
- 厚生労働省臨床検査技師国家試験委員会副委員長（2021.4-2023.3）
- 厚生労働省臨床検査技師国家試験委員会委員長（2024.4- 現在）
- 臨床検査医学会専門医試験委員（遺伝子・染色体関連検査）



InheriNextは先進的なAI技術を駆使して遺伝性疾患の診断をサポートし、解析作業の負担を大幅に軽減します。また、医療専門家にとって価値ある情報を提供する遺伝子データ解析プラットフォーム、遺伝子データベース、医学診断支援システムとしても役立ちます。



日本臨床検査専門医会 第5回年次大会 ランチョンセミナー

※本セミナーは、医療従事者向けのセミナーとなっております。

日 時

2026年5月23日(土) 11:30~12:30

会 場

千葉大学墨田サテライトキャンパス
第一会場(3F)

〒131-0044 東京都墨田区文花1-19-1
<アクセス> <https://gakkai-cms.com/jaclap5/index.php>

千葉大学
墨田サテライト
キャンパスへの
アクセスはこちら▶



座 長：千葉大学医学部附属病院 検査部長 **松下一之** 先生

演題①

～普及から数年、いま改めて問うIGRA検査～
QFTと結核診療の進化

演 者 千葉大学医学部附属病院 感染制御部 部長 感染症内科 科長 教授
猪狩 英俊 先生

プログラム

演題②

感染管理の三層構造
～病院・地域・政策から読み解くコロナの教訓と
検査体制の未来～

演 者 医療法人社団永生会 永生総合研究所 所長
神戸 翼 先生

参加方法

整理券はございません。先着順でのご入場となります。

共催：日本臨床検査専門医会 / シスメックス株式会社



GenMine Labs

日本臨床検査専門医会 第5回年次大会 スイーツセミナー

日時

5.23 2026
SAT
14:45 ▶ 15:35

(オンデマンド配信あり)

会場名 第2会場

開催場所

千葉大学
墨田サテライトキャンパス4F

〒131-0044
東京都墨田区文花1-19-1

座長 **松井 啓隆** 先生

国立がん研究センター中央病院
臨床検査科 科長

がん遺伝子パネル検査の 全体像と実務

演者 **加藤 真吾** 先生

横浜市立大学附属病院
がんゲノム診断科 診療科部長・准教授

水の分子運動と生体試料の劣化・凍結

日本臨床検査専門医会 第5回年次大会 ランチョンセミナー4

座長： 古田 耕 先生
医療法人社団 誠馨会 千葉メディカルセンター
検査部 部長

演者： 白樫 了 先生
東京大学 生産技術研究所
機械・生体系部門 教授

日時： 2026年5月24日 (日) 12:00～13:00

場所： 千葉大学墨田サテライトキャンパス第2会場 (4F)

講演要旨

臨床検体や医療用細胞の「質」を保つ」という意味は、顕微鏡で目視できるスケールの形状や構成する生体分子の高次構造まで維持することに他ならない。このような生体試料を長期間保存する際には、生体分子の分解や変性等の劣化反応の速度を極力抑えるために、試料を冷却して低温で貯蔵する。この際、生体試料は液性、組織を問わず必ず水分を含有していることから、試料内の水には、凍結をはじめとする種々の物理化学的変化が生じる。さらに、劣化反応は水を媒質とした環境で進行するので、水分子の挙動は劣化反応の速度に影響し、生体試料の「質」に決定的な影響を与える。本セミナーでは、保存操作に伴う水の物理化学的変化を概観した後、その分子運動の状態の指標である回転緩和時間と生体試料の「質」の関係を、劣化と凍結の観点から解説し、あわせて新しい保存技術の例を紹介する。

注意事項：本大会では会期後に一部セッションのオンデマンド配信を行います。本共催セミナーは現地開催のみとなります。

共催：日本臨床検査専門医会第5回年次大会／サーモフィッシャーサイエンティフィック

セミナーに関するお問い合わせはこちらへご連絡ください。

info.LPG.jp@thermofisher.com

研究用のみ使用できます。診断用には使用いただけません。これらの製品は一般的なラボでの使用を目的としています。

製品の性能がお客さまの用途やアプリケーションに適しているかどうかはお客さま自身でご確認ください。

© 2026 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved.

記載内容は予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

LSP561-A26040B

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

お問い合わせはこちら thermofisher.com/contact

thermo scientific